

# 進化経済学会

ニューズレター No.31  
Nov. 2011

進化経済学会事務局  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19  
国際文献印刷社内  
03-5389-6493  
evoeco-post@bunken.co.jp



(2011.09.10 : 摂南大学)

++++  
オータムコンファレンス報告  
サマースクール開催報告  
進化経済学会第V期第6回理事会記録  
進化経済学会役員選挙についてのお知らせ  
新投稿審査システム運用開始のお知らせ  
Call for Papers (国際シュンペーター学会)  
会員の異動  
編集後記  
++++

## オータムコンファレンス報告

第16回大会事務局 平野泰朗

今年度のオータムコンファレンスは、9月10日（土）に大阪の摂南大学で開催され、およそ35名が参加しました。

本年度は、特別講演の講師の都合が急遽変わり、当初の予定とは異なることとなりましたが、そのことにより、かえって全体としては統一したテーマのもとで開催することができました。その開催プログラムは、以下のとおりです。

### 特別講演 13:30～15:00

講師：摂南大学理工学部建築科准教授 池内淳子  
演題：災害医療活動の円滑化と災害に強い病院づくりー阪神・淡路大震災の教訓を生かしてー

### シンポジウム 15:30～17:30

テーマ：大都市圏の形成と社会変容

シンポジスト：

小長谷一之（大阪市立大学）「大都市圏の形成と構造、クリエイティビティ、経路依存」

吉村臨兵（福井県立大学）「労働力の転変と貧困～大阪にかよう／とどまる～」

井出明（追手門学院大学）「反石原、そして反橋下の都市観光～アートマネジメントと創造都市の視点から～」

見られるように、今回は、広い意味では、地域問題を取り上げたと言えます。シンポジウムのテーマを企画した段階では、独自の産業集積を形成する地域を考察対象として取り上げ、そこに生じる社会的・経済的問題の統合的把握を試みようとしていました。そこでは、経路依存性などの進化経済学が導入すべき概念を生かした分析ができるのではないかと期待がありました。そして、大阪で開催される大会なので、地域の中でも大都市圏を取り上げようと考えていました。ところが、その後、3月11日に東日本大震災が発生し、図らずも防災という観点から、より広く地域の社会・経済構造が問われることになりました。そこで、特別講演に震災対策への考察を組むことにより、より広い観点から現代の地域社会が解決すべき諸問題の構図を取り扱うこととしました。

大会ではまず、特別講演が行われました。ここでは、①阪神・淡路大震災時の病院被害と災害医療活動の実例が紹介され、そこから②阪神・淡路大震災

以降の国レベルの対策として、災害拠点病院の指定・災害医療チームの育成・広域災害救急医療情報システムの導入が行われたことが説明されました。③そうした体制の中で、今回起きた東日本大震災時の病院被害と災害医療活動の実例が紹介され、④地震と病院の関係が建築学の立場から解説されました。それを踏まえて、⑤病院防災力診断指標の構築の必要性が指摘されました。その指標は、単に建築構造上の指標ばかりではなく、立地、建物、給水、電機・ガス、災害対応、搬送、医療関連物資サービスのサプライチェーンにまで及んでいます。そして最後に、生命を守るために身近なところからの耐震準備の必要性が指摘されました。われわれの専攻とは異なる分野からの講演でしたが、講演後には、提起された問題に関する熱心な質疑応答が行われました。

続くシンポジウムでは、まず、小長谷氏が、大都市圏の形成と構造、創造都市を巡る議論、都市形成の経路依存の例としての原発地域の3点にわたり、都市論の包括的議論を提供しました。特に第三の原発問題は、アップ・トゥ・デートな問題だけに、かなり詳しく論じられました。続いて吉村氏が、都市の生活問題に絞って報告をされました。具体的には、大阪市の生活保護を例にとり、貧困の問題を解説しました。それによれば、大阪市では、近年、貧困は住まうこと、具体的には一人暮らしやホームレスあるいは施設入所等の形で多くみられるようになったとのことでした。最後に、井出氏が、都市観光資源と政策の関係を、東京都と大阪府を例にとり論じました。それによると、都市観光資源は、アートと多様性（多様な文化の混在）であり、この資源の開花を条件付けるものは、自由である。しかし、両都市の政策は、行政の判断でアートの自由を規制するものであり、都市文化の活力を妨げるものであること論じました。3氏の報告後、活発な議論が行われました。

以上のように、本年度のオータムコンファレンスは、参加者数はそれほど多くはありませんでしたが、現在の日本で考えるべきことを多く含む内容のものとなったと思われます。

## 第16回大会事務局からのお知らせ

本大会から参加費を徴収することが、理事会で承認されました（後の「理事会記録」を参照）。したがって、参加会員には2000円（院生会員は1000円）をいただくこととなります。よろしくお祈りいたします。

## サマースクール開催報告

進化経済学サマースクール担当 吉野裕介

平成23年9月9日14:00から18:00まで、摂南大学10号館6階の1061教室にて、例年通り進化経済学会サマースクールが開催されました。このイベントは若手研究者によって運営され、新進気鋭の研究者に院生から若手研究者を対象とした研究報告をお願いしています。参加は学会員に留まらず非学会員にも門戸を開いており、異分野との交流や研究方法についての理解と参加者同士が相互に交流することを目的としています。

昨年まで年毎にテーマを設け、「進化ゲーム理論」や「労働経済学」などを取り上げて開催してきました。今年は「経済学史・経済思想」の分野に注目し、『若手研究者による講演:進化概念と経済学説・経済思想』というテーマで二人の気鋭の先生に報告をお願いいたしました。進化経済学会において経済学史や経済思想は毎年専門のセッションが開かれるなど一定のプレゼンスを占めており、専門とする学会員も数十名を越えると思われます。加えて、こうした歴史的研究に日頃馴染みのない研究者の方々にとっても、進化概念のあり方や進化経済学の発展を考えるうえで興味を惹くのではと考え、このようなトピックを選ぶに至りました。

第一報告は、牧野邦昭会員（摂南大学経済学部・講師）から「進化の概念について:近代日本思想史から」という論題でご講演頂きました。まず江戸時代以降の日本の思想史において、進化という概念がどのように使われ、論じられてきたのかについて整理があり、進化概念と儒学や朱子学などの学問の関わり合いを説明されました。

次に、社会主義と進化論がどのような関係をもっていたのか、つまり進化や進化論のイデオロギーの面についてお話され、さらに第二次世界大戦以降の日本における進化論の発展についても概括がありました。それによれば、進化論者は社会主義的主張に親和的であった人物がいた反面、天皇制の擁護を主張する者もあり、時代によって様々な思想の背景に据えられたそうです。ただし、日本の経済思想の歴史において、進化概念は比較的好意的に導入されたと総括がありました。

さらに問題提起として日本で用いられてきた「進化」という言葉が英語のevolutionと必ずしも一致した意味ではなかったことが、その後の進化論や進化経済学にとっても看過できない問題ではないかという指摘をされました。牧野会員の専門領域である知識や学

問が日本という社会でどのように捉えられてきたのか、つまり知識（思想・学問）の社会史といった分野からの、重要な問いかけであったと言えるでしょう。

第二報告は、藤田菜々子会員（名古屋市立大学・准教授）から「進化とミルダール経済学」という論題でご講演頂きました。先生はまず、ご自身の研究関心の遍歴を話され、ミルダールを研究対象に選んだ経緯とかれの累積的因果関係論を中心に大きなミルダール体系を解き明かそうというご自身のこれまでの試みについて紹介されました。平素で上がったものしか読む機会のないわれわれにとっては、なぜ先生が現在の研究対象を選ぶに至ったのか、その経緯を知ることができたのは貴重でした。またミルダールという人物とその経済学について、専門家によって簡便に概説いただけただことは、大変有意義な機会であったと言えます。

次にいくつかの論者による代表的な累積的因果関係論を紹介され、そのなかでミルダールのそれがどのような特徴を持っているかについて話されました。ミルダールの累積的因果関係論は、ヤング＝カルドアタイプの制度的要因を捨象した累積的因果関係論とも、ヴェブレンのような政策的な含意に乏しいそれとも違う、つまり「設計」と「進化」を対立させず、両者に架橋を渡す位置にある理論であるとのまとめでした。

さらに、累積的因果関係論と進化との関連性について、現在の進化経済学や進化概念などの成果をふまえて論じられました。そこでは問題提起として、累積的因果関係論と同様に進化経済学に政策論を取り入れていく際の制度設計をどう考えていくべきか、フロアに対して問いかけがありました。質疑応答においても、進化経済学（者）が考える政策と、ミルダールの理論体系とをどのように融合あるいは対比させて考えればよいのかについて意見交換されました。ここでは、進化はもちろんのこと、「制度とは何か」や「制度設計とはいかになされるべきか」が中心的な問題であったように思われます。

このように両先生による報告はいずれもご自身の研究関心やこれまでの成果が凝縮された興味深いものであっただけでなく、進化や進化経済学に対しての問いかけや意見を含んでいることで、参加者との有意義な議論が展開されたように思います。

参加者も院生や若手研究者、中堅、ベテランの先生方とまんべんなく参加がありましたが、どの世代とも活発な議論があり、その後の懇親会も含めて有意義な一日となりました。反省点としては、このサマースクールが新たな会員の獲得にどれほど寄与しているのか不明なこと、今後当学会におけるこのイ

ベント自体の位置付けの認識を高め、より多くの方々が関われるよう運営することがあげられます。来年開催される場合は、より多くの方々の参加をお持ち申し上げます。最後になりましたが、今回ご報告をお引受けいただいた両先生と会場を確保いただいた摂南大学の先生方に深謝申し上げます。



(左：藤田菜々子会員，右：牧野邦昭会員)

## 進化経済学会第V期第6回理事会記録

記録作成者：理事・宇仁宏幸

1. 進化経済学会第V期第6回理事会は、2011年9月10日の12時00分から13時15分まで、摂南大学で開催された。出席者は、会長、18理事、2会計監査委員、欠席13理事（うち議長宛委任状提出12理事）であった。また、有賀編集委員長の代理として、小山友介会員と小川一仁会員が陪席した。

2. 前理事会の前に年度末退会の意思表示があったものの6名、前理事会以降受け付けた退会者は2名であった。他に、会則第7条の適用（会費3年滞納後さらに1年間待った上での適用）によって2010年度末に除籍された会員が12名存在する。（なお、この措置によって除籍された会員が会員資格を回復するには、再入会の手続きを要するが、その際には、滞納会費分が請求される。）

3. 入会申込者は4名あり、全員が入会資格を充たしているものと判定した。

4. 上記の結果会員数は、休会会員も含めて個人会員478名（うち会費減免会員通称学生会員87名）、賛助会員1団体（1賛助者の2アドレス）、招待会員2名で計482会員となる。

5. 安孫子誠男監査委員、服部茂幸監査委員の確認署名のはいった平成22年度決算書が配布され、その概要が報告された。その後、安孫子監査委員より監査の報告があった。

6. 平成23年8月31日現在の学会会計状況の報告があった。今年度末には繰越金がほぼゼロとなるので、その対策として30~40万円の収入増加か支出削減をはかる必要がある。収入増加の案として、大会参加費が検討され、今年度の大会から会員2000円（院生会員1000円）の大会参加費を設定することとした。支出削減の案として、大会HPの保存によってCD-ROM作成を取りやめることにより大会費を削減することや、会計業務の委託をやめることにより業務委託費を削減することが議論された。これらについては次回の理事会で決定することが確認された。

7. 今年度第16回大会の報告申し込み状況について大会運営委員会から説明があり、申し込み期限を10月半ばまで延長することとした。

8. 第17回大会を中央大学か東京大学で開催することを検討することとした。

9. 役員選挙は次のように実施することを決定した。  
・経費節減のため、従来型の冊子体の会員名簿は作成せず、会員名と所属を記載した会員一覧表を投票用紙と同封して11月初旬に送付する。12月に開票・結果確認。来年3月の会員総会で新役員決定。

・選挙管理委員は次の3名とする。

佐々木啓明（京都大学）、西洋（阪南大学）、江口友朗（立命館大学）

・規定により、会長については、藤本現副会長を候補者とする信任投票となる。

・副会長候補者として、有賀裕二会員、西部忠会員を選出した。

・理事のうち下記の13名については、理事会推薦候補として信任投票とする。残りの約17名の理事については全個人会員を被選挙権保持者とする15名連記の自由投票とする。

理事会推薦理事候補：有賀裕二、小山友介、小川一仁、江頭進、瀬尾崇、井出明、平野泰朗、岡村東洋光、西部忠、長尾伸一、吉田雅明、高安美佐子および会計担当理事候補1名（人選については藤本副会長一任）

10. 編集委員会からEvolutionary and Institutional Economicsの編集・刊行状況についての報告があった。J-STAGE3への移行手続きについて説明があった。

11. 部会活動の報告は省略された。

<退会者>

長尾史郎、石塚良次

<会則7条適用者>

12名 氏名省略

<入会資格承認者>

Stig Lindberg, 西井進剛, 萩林成章, 塚田文子

\*\*\*\*\*

本理事会の後、来年度第17回大会の開催校は、中央大学に決定しました。

## 進化経済学会役員選挙についてのお知らせ（11月10日）

進化経済学会選挙管理委員会 委員長 佐々木 啓明  
江口 友朗  
西 洋

下記の要領にて、第5回進化経済学会役員選挙をおこないます。投票要領ならびに郵送要領を熟読の上、正確に投票をお願い致します。今回は2012年4月1日より2015年3月31日までの3年間任期の役員選挙で、（1）会長選挙、（2）副会長選挙、（3）理事選挙があります。投票は郵送で行い、期限は2011年12月10日必着とします。

なお、今回の選挙については、経費節減のため、従来型の冊子体の会員名簿は作成せず、会員名と所属を記載した会員一覧表（選挙権者・被選挙権保有者名簿）を投票用紙と同封して送付することが、2011年9月10日の理事会で決定されました。「役員選挙細則」については、今回同封致しました「進化経済学会規定一覧」をご覧ください。

### \* 投票要領 \*

- （1）会長選挙に関しては、進化経済学会役員選挙細則に基づき、現副会長の藤本隆宏会員を候補者とする「信任投票」をおこないます。所定の欄に不信任の場合のみバツ×を付けて下さい。信任の場合には何も記入しないで結構です。  
（○を付けられた場合や信任と記入された場合にも信任とみなします。）
- （2）副会長選挙に関しては、2011年9月10日の理事会において別記の2名の会員を候補者として選出いたしましたので、このうち1名のみの方の氏名を、所定の欄にご記入下さい。（同数の場合には、協議あるいは抽選で決定します。）
- （3）理事選挙に関しては、理事会推薦候補者リストによる信任投票と、全個人会員を被選挙権保持者とする15名連記の自由投票とにより、約30名の理事を選出します。信任投票については、2011年9月10日の理事会において選出された別記の11名の理事会推薦理事候補を信任する場合には、所定の欄に、必ずマル○をご記入下さい。  
（無記入の場合には、不信任とみなします。各理事会推薦候補の信任が投票の過半数に満たなかった場合には、15名連記自由投票分の当選予定者の次点以下の方から不足分を補充致します。）  
自由投票については、投票用紙右側の空欄に15名分の氏名をフルネームでご記入下さい。（もし、最下位当選予定者が同数の票を得た場合には、複数当選とし、理事数を増やします。）

### \* 郵送要領 \*

- （1）すべての該当箇所に記入したかどうかをご確認下さい。
- （2）投票用紙1枚を（宛名のない）小さな封筒に入れて下さい。（無記名、秘密投票ですので、小さな封筒には投票人の名前を記入しないで下さい。また、封筒に入れない場合には無効票として扱いますので、ご注意下さい。小さな封筒は糊付けしないで下さい。）
- （3）（宛名のない）小さな封筒を宛名の書いてある大きな封筒に入れ、糊付けし、裏に投票人の住所と氏名を書き、ご投函下さい。（投票権を有する会員であることを確認するため、記名のない場合は無効として扱いますので、ご注意下さい。なお、外国から郵送される場合には、相当する切手を貼付して下さい。）
- （4）12月10日必着に間に合うようにご投函下さい。

以上

## 新投稿審査システム運用開始のお知らせ

Evolutionary and Institutional Economic Review 編集委員会

この度、EIER では新しい投稿審査システムを導入いたしましたので、お知らせいたします。この変更は EIER のウェブでの発行ベースとなっている JST(科学技術振興機構)のシステムが現行の J-stage2 から J-stage3 に移行するための変更の一環です。新しい投稿審査システムは今後 5 年間使用されます。J-stage3 への移行は来年度からですが、審査システムの移行は今回をもちまして、今後 5 年間はございません。

変更に伴いまして、エルゼビアやシュプリングーの様な直観的な投稿誌・審査システムの運用が可能になると共に、トムソン・ロイターのデータともリンクします。そのため、本誌のインパクトファクターもより客観的な形で算出されますので、評価もより高まると考えられます。

新投稿審査システムの URL は <http://mc.manuscriptcentral.com/eier> です。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/eier/-char/ja/>の「お知らせ」画面にも上記リンクが掲載されています。新たに論文を投稿される場合には、こちらから投稿されるようお願いいたします。11 月 1 日現在、旧システムへの投稿はできないようになっています。

現在審査中ないしすでに投稿済みの論文につきましては、旧システムでの審査プロセスとなりますので、査読/審査に関係されている方はその点をご了解下さい。旧システムの URL は

<http://ess.jstage.jst.go.jp/contrib/eier/main/-char/ja> です。このページに入っても既投稿者、査読/審査関係者以外は先に進めないようになっています。

なお、進化経済学会 HP から辿ることができるページ

(<http://www.jafee.org/EIER/Evolutionary%20and%20Institutional%20Economic%20Review.htm>)の

[submit from here!]は 11/5 現在でリンク先変更が行われていません。変更次第メーリングリストでの告知を行います。

以上、取り急ぎお知らせ申し上げます。

新システムに関する質問につきましては、小川一仁：kz-ogawa@kansai-u.ac.jp  
もしくは小山友介：yuhsuke@shibaura-it.ac.jpまでお寄せ下さい。

## Call for Papers : International J. A. Schumpeter Society

(国際シュンペーター学会からのお知らせ)

Dear Friends and Colleagues

I am very pleased to announce that the 2012 International Schumpeter Society Conference will be held at the University of Queensland, Brisbane, Australia, July 2nd-5th. This will be the first time that the Conference has been held in the Asia-Pacific region since it was held in Kyoto, Japan in 1992. So the organizers are particularly keen to attract researchers and scholars from Japan to attend and present at the Conference.

The title of the Conference is:

Entrepreneurship, Innovation and Competitive Processes in Complex Economic Systems

The Conference Website can be accessed at <http://schumpeterconference.org/>.

Call for Papers:

We welcome all submissions that deal with theoretical, methodological, empirical and policy issues with an evolutionary economic focus. Examples of fields in which submissions are welcome are:

- applied evolutionary economics
- behavioral economics
- competitive processes
- complex economic systems
- economic development
- economic history
- entrepreneurship
- evolution of preferences
- evolutionary economic methodology
- evolutionary economic policy
- evolutionary economic theory
- evolutionary macroeconomics
- experimental economics
- innovation policy
- organizational innovation
- political economy
- regulatory economics
- socioeconomics
- technological innovation
- theory of the firm

Although the Conference is open to submissions in all areas of evolutionary economics, we would like to encourage submissions in six priority areas:



1. Evolutionary perspectives on the causes and consequences of high economic growth in Asian economies
2. The role of energy and other natural resources in economic evolution
3. Understanding and achieving environmental sustainability using evolutionary economic analysis
4. The role of intellectual property in driving innovation in the new media
5. Long waves, finance and global crises
6. Productivity growth and structural change

In addition, we encourage researchers to offer proposals for parallel sessions on other topics of contemporary interest and to coordinate paper submissions for these sessions. Of course, there is no guarantee that such papers will be automatically accepted since all submissions have to go through a formal review process.

All extended abstracts and finalized papers must be submitted online through the 'Speaker Portal' in the 'Call for Papers' field of the Conference Website.

The provisional Conference Program, which includes the plenary session themes and Keynote Speakers, is available on the Conference Website.

The Schumpeter Prize Competition:

Submissions are invited for the 13th Schumpeter Prize Competition, which carries a cash award of 10,000 EURO, on the following topic:

Evolving towards sustainability: the role of entrepreneurship, innovation and competition

Submissions must not have been published before 01/07/2010 and can be in the form of a book/manuscript or article/paper. Submissions will be judged by an international scientific committee and the winner will be announced at the 2012 Conference Dinner.

Submissions must be sent in original plus four copies to: Professor Uwe Cantner, Department of Economics, Friedrich Schiller University, Jena, Carl-Zeiss-Strasse 3, Jena, Germany, D-07743.

In addition, emails must be sent to both Professor Uwe Cantner ([uwe.cantner@uni-jena.de](mailto:uwe.cantner@uni-jena.de)) and Professor Kurt Dopfer ([kurt.dopfer@unisg.ch](mailto:kurt.dopfer@unisg.ch)) confirming that a submission has been mailed.

Entries must be received no later than 01/03/2012.

We very much look forward to your participation in the 2012 Conference in Australia

John Foster, President of the International J.A. Schumpeter Society